



まるごとてんぱく 探訪シリーズ



地域に笑顔があふれるまちづくりを目指し、各学区における地域のつながりや地域独自の魅力をお届けします。

天白区を5つのエリアに分けて、該当エリアの区政協力委員長と区長の懇談の様子をお伝えします。

最終回となる第5回目は、相生・野並の2学区の皆さまです。

学区の見どころは何ですか？

(相生) 相生学区には緑豊かな「オアシスの森」という所があります。「オアシスの森」といえば、ヒメボタルが有名でして、地元の間人もさることながら、よその地域の方々に興味を持ってもらって、よく訪れていただいているようです。ヒメボタルのためには森を明るくしてはいけないうえ、道の整備もそんなにされていないことから、一人二人で森の中にいると、少し怖いような気がしています。

(区長) そういった鬱蒼とした感じが、いかにも「手つかずの自然」という感じがしていいのではないかと思います。区役所でも、天白プロムナードといって、相生山緑地を散歩道として設定しています。静けさと緑に囲まれ、鳥のさえずりも聞こえたりして、心のデトックスができるというようなテーマで設定されているのですが、PRについては、これからの課題ではないかと感じております。

(相生) 来た当初は竹林が全く管理されておらずに倒れっぱなしだったのを、緑地を保護する人たちが手を入れてくれて、今の「オアシスの森」までになりました。一生懸命やってくださっていた方もお亡くなりになったりして、保全活動が続いていくことは大変なことだと感じています。また、相生学区ではコミセンの活動が活発で、先日もスポーツフェスタを開催しました。お子さんたちを中心に楽しんでもらって、パン食い競争もやりました。大きい子が小さい子にコツを教えて、みんなで協力し合ってパンを取る様子が、見ていてほほえましいです。参加人数は40名くらいですが、保護者もあわせたら、そこそこの盛り上がりでした。最近、学区内に大きなマンションができて、ファミリー層の入居が進んだことから、子どもたちが増えて、だいぶ

賑やかになりました。一時、人口減少から他学区と合併して…と考えられていた時期もありましたが、多少は持ち直しているようです。このまま子どもが増えていけばいいと思います。11月に開催するコミセン祭りは、太鼓をやって景気づけもいいなと考えているところです。

(区長) 昨年の夏に開催した「天白区子ども区民会議」にボランティアで参加していた大学生が、地域のことに興味をもって、その後、相生消防団に入団したと伺いました。相生学区には豊田工業大学がありますが、このように若い学生たちと地域が繋がっていくということも大変意義深いことだと思います。

(野並) 相生学区さんのお話で出てきた「相生山緑地」ですが、その中には野並学区の部分もありまして、たくさんの方が住んでおります。名古屋市の都市計画では、将来的にはスポーツやいろいろなレクリエーションができるエリアにするというような計画があるようです。相生山緑地内の多目的広場で、グラウンドゴルフ大会などを開催したり、相生山をぐるっと周るウォークラリーというようなイベントも行っています。ヒメボタルが見えるところなどをポイントにして、自然と親しんでいただいています。学区内にある野並八剣社は、由緒ある神社です。八剣社の剣とは、草薙の剣と言われておりまして、熱田神宮とも深いつながりがあるそうです。その昔、このあたりに「鎌倉街道」が通っておりまして、織田信長が桶狭間の戦いに行くときに、熱田神宮で願掛けをして、この鎌倉街道を歩いて桶狭間に向かったなどということも伝えられています。今でも鳴海の方へ行くと、砦の跡がまだ残っているんですよ。こうした歴史のあれこれを、お祭りなどの機会に宮司さんから教えていただいております。先ほど話しましたウォークラリーでは、ポイントの一つに野並

八剣社をしまして、皆さんに親しんでいただけるようにしています。また、2 年位前に、八事の蝶々保存会の安江さんから、相生山の竹を「八事の蝶々」作りに使いたいとお申し出をいただき、学区で切り出してお使いいただいております。その他、若い世代との交流も大切にしています。野並学区には名古屋市立若宮商業高校があって、ことあるごとに交流を深めています。学区のお祭りに吹奏楽部が演奏してくれたり、全国レベルのダンス部が披露してくれたり、色々と楽しませていただいています。また、避難所開設の訓練も昨年度は若宮商業高校にお願いして実施させてもらいました。

(区長) 若宮商業高校の皆さんには、区民まつりのポスターや農業まつりの和菓子の考案にも協力していただいています。こうした若い力は、学区だけでなく区全体においても大切にしていきたいものですね。

(野並) 学区のお祭りに診療所やケアセンターがPRを兼ねてお店を出してくれています。地域の皆さんにPRをする場としてお祭りを上手に使ってもらっていますね。



学区運営にかける思い

(相生) 自分は区政協力委員を 24 年ほどやっておりまして、花いっぱい運動に力を入れてきました。始めたころに比べると、携わる方たちの高齢化が進み、手入れがままならなくなってきたため、多年草を取り入れるなどして、皆さんが楽に作業できるように切り替えながらやっています。町を美しくする運動一つとっても、関係

団体がどんどんと縮小し、あるいは辞めてしまったりして、今では本当にこじんまりとやっています。公園などの美化に関しては、名古屋市の協力が不可欠なのではと感じています。また、町内会の運営という点では、地域の担い手づくり、後継者づくりという課題がありますし、さらに地域のつながりという点では、新しくできたマンションに転入してきた方々と、今後どう関わっていくかということも課題だと思っています。

(野並) 野並には色々な団体がありますが、その方々がそれぞれ楽しいことをやっていて、学区の行事などにもどんどん参加してくださっています。保健環境委員さんたちがやっておられるマルシェには、フラダンススタジオからご披露に来ていただいております。今では呼び物の一つとなっております。また、診療所さんもイベントのたびにご参加いただいて、認知症とかさまざまな病気のことを伝えてもらっています。地域団体さんとのつながりを密にして、うまくつながっていくことが大切と考えています。もう一つ、私が心がけていることは、「みんなで盛り上げていく」ということです。学区運営では、学区長が一人で取り仕切るというようなやり方もあるかと思いますが、こうしたことは企画段階からなるべく多くの方々に携わっていただいて、みんなで行事を作り上げていくことが大切だと考えています。ただ、地域運営に関わってくださる担い手が不足してきていることは切実な問題です。その中でも一生懸命やってくださる方もいるので、そういう方に責任ある仕事に就いていただいて、盛り上げていただけるようにしています。町内会長の中には仕事をされている方もみえますし、小さいお子さんをもつ若い女性もみえますので、責任ある仕事を任せたくても中々難しい場合もあります。

(区長) 学区の運営において、活動の担い手が減っているというご意見は、やはり多いですね。そんな中で、今までのやり方を変えて、工夫しながら手を探していかなければならないわけですが、地域の役員さんから以前、直接お聞きした話で、最初は役員をやることに難色を示していても、やってみるとかなりやりがいや手ごたえを感じることができ、どんどん活動を発展させたくなったとおっしゃっていただいたのが大変印象的でした。

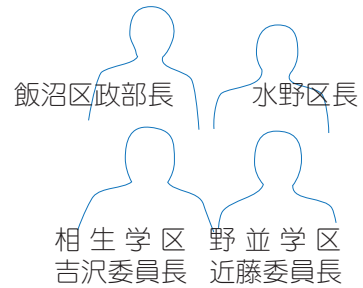


この次の50年に向けて地域の子どもたちに伝えたいこと

(相生) 私自身、天白に来て50年になります。これから先の50年は、なかなか見当がつかないですが、思いつくことといえば、宇宙に飛び出すというような大きな夢を持って進んでいってほしいということでしょうかね。

(野並) 今年の区政協力委員さんに、自分と同年の方が結構みえまして、「お前も区政協力委員になったんか」、「町内会長になったんか」などと言い合うことがありました。昔の仲間が、また集まって活動できるというのは、なかなかいいものです。これから地域を担っていく子どもたちにも、地元を愛して、今の仲間をいつまでも大切にし、絆を深めていってほしいと思います。

(区長) 地域役員同士でも、趣味のつながりでも、地域に気の置けない仲間がいるというのは、いいですね。そのつながりをベースにして、他の地域のイベントや活動にも参加し、そのネットワークをさらに様々な場面に発展させていけるといいのではと感じています。



地域行事に参加する人たちが
増えていくと、地域の中でのつながりが
深まっていったら、一緒に活動する機会も
どんどん増えていくね。そのことが
新たな活動の場面にどんどん
つながっていくといいなあ。

